

生活の再生を

【アルケ！を獲得】

脊髄損傷で下半身麻痺となった患者の脳と脊髄の2箇所に電子機器を埋め込み、脳からの信号を人工知能AIで解読、伝送して筋肉を活性化させることに成功しました。

患者はリハビリにより、補助器具を使用して、立ち上がり・階段の上り下り・1日に数百メートルを歩くことが可能になりました。

さらに、装置の電源を切った状態でも感覚や運動能力の向上が見られたといい、繰り返し運動することで神経細胞の再生が促されたためではないかと考えられています。

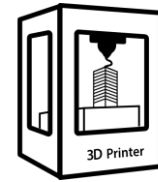


【元通りの感覚に】

自身の細胞を使って神経を再生することを確認しました。

指や手首の神経を損傷した患者に、自身の細胞を3Dプリンターで培養して作った「神経導管」を損傷部位に移植。

治験に参加した3人も知覚神経が回復し、副作用や合併症もなく、元のとおり仕事ができるようになったといいます。

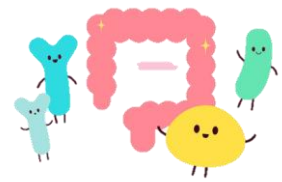


【感覚の早期回復】

コロナウィルス感染症の症状緩和に、免疫の司令塔を活性化する機能を持つプラズマ乳酸菌が有効だったと発表されました。

昨年コロナウィルスに感染した軽症患者に参加してもらった治験では、プラズマ乳酸菌服用者は、非服用者と比較して、体内のウィルスが早期に減少、嗅覚・味覚障害の早期回復が見られました。

軽症患者向けの治療に繋がるのが期待されます。



生成AI 規制が必要

【利用に親子格差】

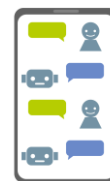
対話型人工知能チャットGPTにおいて、世代によっての活用の違いが浮き彫りになりました。

12~18歳生徒300人と、5~18歳の子供を持つ親1181人が回答した調査によると、生徒の利用率が58%だったことに対し、親の利用率は30%と、親子格差が倍近くという結果となりました。

利用が急拡大しているチャットGPTですが、親も生徒も過半数が「ルールや安全基準ができるまで、

学校はチャットGPTのようなAIプログラムの利用を制限すべきだ」と答えています。

開発したオープンAIの責任者も「何らかの規制を設けるのが賢明だと思う」と発言しています。



福岡あるある

【夜間のゴミ収集のメリット】

福岡では複数の市区町村で、日没から夜12時までに出された家庭ごみが、夜間に収集されています。

この夜間収集は、高度経済成長のさなかに、交通渋滞を避けるために始まりました。

渋滞回避以外にも、カラスの眠っている時間に回収されるのでごみの散乱が少ない、朝にゴミ置き場の腐敗臭が少ない、

福岡市だけで約190台にもなるパッカー車が

夜間に街を駆け巡ることで防犯の効果もあるなど、メリットは多数です。

最近では、作業員の声が騒音にならないように、集音マイクで作業員と運転手がやり取りをするといった、夜間の音に対する気配りもあるようです。



アイデアで人を動かす

【仕掛学って何？】

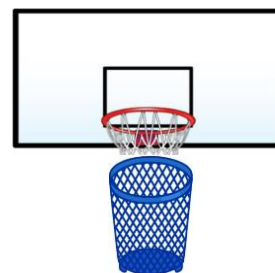
人の行動を強制するのではなく、人の心理に働きかけて行動を促す仕掛学。

この手法を使い、愛知県警が自転車の盗難防止として、自転車のハンドルに「盗難防止検証中」と書かれたタグをつけたところ、盗難被害が約8割減少しました。

この仕掛学は色々な場所で活用されています。

手を入れると自動的にアルコール消毒される、ローマの観光名所「真実の口」を模した消毒器や、バスケットゴールを取り付けたゴミ箱…。

楽しんでいるようで自然と問題解決できてしまう仕掛学、発生した問題について規制や罰則でなく、「仕掛け」で問題が解決する場面が増えるといいですね。



暑さ対策万全に

【熱中症にご用心】

今年の夏ごろまでに高確率で発生するとみられているエルニーニョ現象。

これにより、世界の気温が記録的に高まる可能性があります。

WHOは、人々の健康や食糧安全保障、水資源の管理などに影響を警告しています。

日本でも5月ごろから気温が上がり、熱中症のニュースが多く聞かれています。

まだ暑さに身体が慣れていないため、

夏本番に入る前に少しきつめの運動で汗をかく練習をするといいそうです。

さらに、運動直後に牛乳のような糖質とタンパク質を含んだ食品を取ると、血液量が増えて体温調整がしやすくなります。

牛乳が苦手な人はヨーグルトやチーズなどもよいそうですよ。

